

地球環境の保全

佐賀大学大学院地域デザイン研究科 1年

田中友梨香

ユバスキュラ大学では、学術的な英語を学ぶために「Academic English Communication 1」「Academic English Communication 2」と専門科目の「Introduction to Responsible Business」と「Sustainability Transition and Business」を履修しました。また研究活動では、サーキュラーエコノミーに関する取り組みを行っている企業へのインタビュー調査を行いました。

まず授業について述べます。「Academic English Communication」の授業では、様々な国からの留学生（特にヨーロッパからの留学生が多く、アジア人も何人かいました）と一緒に授業を受け、ディスカッションやプレゼンテーションなどを行いました。それぞれ異なるバックグラウンドや文化を持っているので、一つのトピックを話し合うにしても、意見が全く異なったり、自分にはなかった視点を話してくれたり、多様な環境ならではの学びが得られたことが良かったです。また、ヨーロッパの学生は自分から積極的に授業中に発言や質問をしていたことが印象的でした。日本では、受け身の授業が多く、授業中に発言する機会は少ないですが、こちらでは、常に先生と学生の対話を中心とした授業が行われていると感じました、そのため、私も積極的に発言するように心掛けていました。日本では間違えることを恐れていたのと周りの学生に合わせなければという思いもありましたが、こちらでは間違えても受け入れてくれる先生や学生、それよりも自分の意見を言って授業に参加をすることが大切だと感じました。個人的にはこのような授業スタイルの方が、授業により参加できて楽しめるし、英語も伸びることを実感したので、日本でもこのような授業スタイルがもっと取り入れられたら良いのと思いました。

専門科目の授業では、修士コースから2つの授業を履修しました。1つめは、「Introduction to Responsible Business」という授業で、主にCSR(Corporate Social Responsibility)についてと環境問題や社会問題に対する企業の実践的な取り組みを学びました。もう1つの「Sustainability Transition and Business」では、サステナビリティについての様々な分野の専門家の方や企業の方からの講義を受け、最終的に、グループで実際にある企業をどのように持続可能にしていくかを考えて、発表と論文を書くというものでした。これらの環境経営学に関する授業は佐賀大学では開講されておらず、今までは、自分で本やネットの記事などを読んで勉強をして、卒業論文などを書いていましたが、今回ユバスキュラ大学で学べるということでも楽し

みにしていました。そして実際に、理論的にも、実践的にも学ぶことができ、同じ分野に興味を持っている学生に出会えたことで、自分のモチベーションにもつながりました。また、修士コースには、さまざまなバックグラウンドを持った学生がおり、日本と異なる点だと思いました。例えば、大学卒業後に企業で働いた経験があったり、働きながら勉強をしていたりと、様々な状況の学生がいました。そのため、授業中のディスカッションでは、企業のサステナビリティ分野で働いている人や、バイオマス関係の仕事をしている人などからの貴重な話を聞くことができ、刺激になりました。

しかし、全体を通して修士コースの授業は、先生の英語を話すスピードが速い、毎回の授業で授業に関するジャーナルを読んでも、期末までに論文を書くといった課題があり、とても難易度が高く、苦労しました。周りにはフィンランド人の学生が多かったですが、私は圧倒的な英語力不足を実感しました。もっと英語を勉強しておくべきでしたし、これからも頑張らなければならないと思いました。

次に研究活動についてです。私は現在、「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」について研究をしています。「サーキュラーエコノミー」とは、経済活動の中で生産から消費のプロセスにおいて、資源を循環させるなどして、廃棄物を減らすための仕組みのようなものです。近年、気候変動や地球温暖化、その他の環境問題は、私たちの生活を脅かすほど深刻化しており、一刻も早く取り組まなければならないと考えています。フィンランドなどの北欧諸国は常にSDGs達成度の上位国に位置しており、環境への取り組みも進んでいます。そこで実際に現地でのどのような政策や取り組みが行われているのかを調査しました。授業で学んだことや文献調査に加えて、フィンランドにある企業と行政にインタビュー調査を行い、主にどのようにしてサーキュラーエコノミーを実現しているのかについて、その機会や課題を探求しました。フィンランドでは、国や企業の環境意識が高く、環境への取り組みを積極的に取り組んでいるだけでなく、国民の意識も非常に高く、国民の声が国や企業の環境への取組に反映されているケースも多いということがとても興味深かったです。

留学を終えて、より環境問題の解決に貢献したいと思うようになりました。留学先で同じ分野に興味のある仲間に出会えたことや現地でしか学ぶことができない経験をたくさんできたからです。また、日本で暮らしていると、決まったルールや狭い価値観の中に縛られて生きることがありましたが、日本の外に出で、様々な価値観に触れることでもっと自由に自分らしく生きることの方が大切だと感じました。私はこれから就職活動を控えているので、自分の社会人としての第一歩を踏み出す前にこのような貴重な経験ができてとても良かったと思っています。これからも貪欲に学び続け、より良い社会とより良い人生を作っていくために、努力していきたいです。



夏のフィンランド（自然豊か）



授業のメンバーとランチ（学食最高でした）



シナモンロール作り（美味しかったです）



快適な寮の部屋（とても良い眺めでした）



図書館
（自習スペースや教室が多く、よく利用しました）



ヘルシンキのクリスマスマーケット
（極寒ですが、とても綺麗でした）